

編集 〒31-431栃木県日光市山内二三六五 平成十五年五月三十日発行 TEL (〇二八八) 五四——一九八 FAX (〇二八八) 五四——一九六 社寺建造物美術協議会 株小西美術工藝社 内 西 陳 雄

拶

社団法人全国国宝重要文化財 理事長 野 坂 元 良

良でございます。 ました厳島神社宮司の野坂元 昨年六月に理事長に推挙され 宮司松浦國男氏の後任として 初代理事長・久能山東照宮

ざいます。 諸事業を推進してこられまし 陳雄会長等のご努力によって たことに敬意を表す次第でご 三年を経過し、この間、 成二年に発会されて以来、 小西

援と御協力の賜物であると心 じめ皆様方のこれまでの御支 周年を迎えることが出来まし た。これもひとえに貴会をは 全文連は昨年、法人設立十

> 財を護るための課題が山積し 材料や技術者の確保など文化 ました。しかし、近年は文化 財の保存修理をするための原 建造物が保存修理をされてき 寺保存法に始まり、数多くの 三十年に公布されました古社 ています。 より感謝申し上げます。 わが国の文化財保護は明治

社寺建造物美術協議会は平

特に檜皮の確保については危 関と協議しながら諸問題に取 題の解決には時間を要します。 り組んでまいりましたが、課 た昭和五十七年頃から関係機 ていくために任意団体であっ 全文連はこのことを解決し

> られるようになりました。 げられ、一般の人々にまで知 このようなことが新聞をはじ 認められるようになりました。 めとするマスコミにも取り上 が試験的ではありますが一部 力が実り、国有林の檜皮採取 存会と全文連のひたむきな努 最近になって文化庁、社団法 機的な状況にありましたが、 人全国社寺等屋根工事技術保

料の問題、 ます。しかし、この他にも顔 でありますが、各事業所とも 力をされているように見受け 後継者の問題には前向きに努 業の連続であります。したが 仕事の中身は華やかなもので って若い人には敬遠されがち はなく、地味で根気のいる作 担当されていますが、実際の 漆・錺金具の華やかな部分を 装飾部分にあたります彩色・ 貴会は文化財保存修理では その他諸材料の確

> 財修理の一翼を担ってこられ の分野で研鑚をつまれ、文化 研修会を実施され、それぞれ らを解決する手段として、貴 難問をかかえながらも、これ 保、工事の安定的な受注など たわけであります。 会は毎年一回の総会と数回の 全文連では後継者不足、

書を刊行することが出来まし 調査を実施しました。第一 力もあって平成十二年に報告 建造物美術協議会会員のご協 報告書も刊行しています。 文化財修理用資材アンケート 三回は「畳」の調査を実施 料不足を緩和する手段として このうち、「漆」調査は社寺 一檜皮」、第二回は「漆」、第

問題も含めて課題が多いと伺

方、生産者の回答では漆採取 五%が中国産であります。 この中で最も懸念されるのが 平均して雇用されています。 財修理関係で、漆工は少人数 八%で、 理使用の生漆は中国産が六十 ですが二十代から六十代まで 会より回答を得ました。文化 巧藝社と日光社寺文化財保存 の道玄、 門では小西美術工藝社、さわ た。このうち漆施工業者の部 「漆」の外国依存度であり修 漆器の輪島では九十 田村漆工、細川社寺

が進んでいます。 十七%が五十歳以上で高齢化 技能者(漆掻き取り工)の八

以上のような回答ですが、

保、円滑な仕事量など経営の では彩色工の養成、顔料の確 の踏襲・円滑な仕事量、彩色 ように思えます。 いのか等問題が山積している を養成するにはどうすればよ ようにすればよいのか、漆工 国産でまかなうためにはどの 国宝・重要文化財の漆塗装を 錺金具では旧来からの技法

材

回

ではないかと思います。 今後の会の運営にも役立つの からのアドバイスを頂ければ この機会に発表され、文化庁 を小西会長にまとめて頂き、 ます。貴会も三部門の問題点 アドバイスもいただいており なされ、文化庁担当官からの 重な情報の提供や意見交換が ます。それぞれの団体から貴 絡協議会を毎年開催しており 所として伝統技術保存団体連 ている問題点を話し合える場 っています。 全文連では各保存会の抱え

悪化の中で貴重な文化遺産を すが、わが国を取り巻く環境 全文連は微力ではございま 400

びに研修会を終了した。 寺建造物美術協議会の総会並 に至らず、事務局に一任とな

った。以上で、

第十四回、社

と言う声も聞かれたが、決定関東地方か、又は海外(台湾)

開催地・幹事の予定として、 閉会の挨拶を述べる前に次回

第 14 回

総会・研修会

(富山県高岡市)

平成 14 年 11 月 16 日

感じである。

(七) 時刻も正午となり、

注のあり方に批判が集まった

納得の行く仕事が出来ない。

ければ、技術者の良心として、 請負工事の分離発注方式でな えない程の理解度で良いのか 価格だけの条件で技術力は問 ラクターの下請けと言うのは なくなる。ゼネラルコンスト

等々の意見で、やはり工事発

始めに事務局より、

出席会員

る。

誌面作りに苦労して

小西会長が議長を勤め、

十五年四月末の刊行予定とす 隔が空いたので半年後の平成 され、

かけがえのない知識を授い文化財の修理修復にと

義なものとして拝聴した。毎 り方」につき講演を頂き有意 並びに建造物修理の調査の取 及び重要文化財建造物の修理

丹念に資料を整えてくだ

会員に配布し協議すべきとの

ご協力を要請した。

(六) その他の意見交換と

必要として、後藤事務局長に これも全文連さんのご指導が

から総会の都度、会則を出席

(三) 会則について、次回

倉山剛が報告して了承された。

たい、

との希望が出された。

(二) 収支報告を事務局の

(一) 事業報告。

補助申請により、

中級者程度

のどの部門かの研修を実施し

ては、『芸術文化振興基金』の(五) 今後の活動計画とし

をお願いしたい、

と事務局

いるので、皆さんからの投稿

提案が出され了承された。

(四)会報『すいかずら』

けて頂き有り難うございます

は、

今回の九、十合併号で間

なすぎる。

これでは段々とジ

リ貧になり、

前向きの思考も

して、

三部門とも仕事量が少

次いで、

総会に入り、会則

作っておられる作家の工房で 伺いする。鍜造金属の名器を 研修先の街島谷昇龍工房へお 稲見社長のご案内で、先ず、 岡駅前に出席会員が集合し、

、並びに研修会は平成十四当協議会の第十四回通常総

保護し、 と思います。 向けて精一杯努めて参りたい くという全文連の目的達成に 今後は貴会のご発展と皆様 次世代へ継承してい

ていただきます に、全文連へのご協力をお願 のご健勝をお祈り い申し上げ、挨拶にかえさせ するととも



第十四回 富山県高岡市で開催する 通常総会並びに研修会を

(敬称略)

お三方揃っての出演で、まこは、先代当主、当代、後継とある。親子三代の伝承の技術 限り。 導・講演を頂く (全文連)後藤 とに羨ましく 当日の参加者は、毎回御指 もあり、 力強い

具)、小西陳雄、倉山剛、齊藤道玄)、森本安之助(森本錺金 信二(小西美術)、に幹事役の 雄二郎(大谷鋳造)、黄地耕造 の十二名である。 稲見晃、石田部長(青銅社) 事務局長はじめ、荒木かおり (金寿堂)、澤野道郎(さわの (川面美研)、 大谷哲秀·大谷

後一時すぎ、

JR北陸本線高

株 青 銅 社、

稲見社長にお願い

めてお世話頂いた。厚く御礼

社員の方々や社用車も含

し上げる次第である。

十一月十五日、午

今回は幹事役を御当地会員の 陸の都市での開催は初めてで 富山県高岡市で開かれた。北

十六日の両日

島谷さんの仕事は正に「勘

查、 修理工事現場へ向かう。 ろ」の集積だった。 得が生み出す工芸は「勘どこ 音感判断の調整、 行く過程の熟練、 金拵えの確かさ、 真宗の大伽藍で、兎に角、

ずまいを失いかけていた。 傷が激しく華麗で荘厳なたた 創建から二百年が経過し、損 法共、当初のものを踏襲する えることが大原則。技法・工 のご案内ご説明を頂いた。 計管理事務所の今井成享所長 し、取り換え材を最小限に抑 ことが大切。文化財修理は古 の印象である。財文建協、設 の彩色文様は大まかで?雄渾 直しに入っている。この系統 る程度終り、 ぶりで巨柱の羅列である。調 『後世に創建時の姿を伝える 材料を少しでも多く再利用 解体、 組立てが軸部で或 塗装関係の化粧 浄土

どころ」の極致と言える。 それ 絶え間ない 叩き出して らの習 地

るかという一つの現象を感じり、音というものに如何に係 そのものが、漆や彩色と異な 武内調査官が時間をやり繰り して見学に来房された。金工 文化庁建造物課の

次に重要文化財勝興寺本堂

かった。天井近く

事を 所長は 次いで、良い機会で今井所

調査の精度も適正化され、

が新しく修理に加わったケ

くなり、幕末から明治のも

スが増えました。彩色の復原

中世から近世への修理が少な 修理は十件位になっています

く百二十六棟に比較して塗装

屋根葺替が多

から講評を頂いた。「常々、社室をお借りして、武内調査官長にお願いして、事務所の一 算も二十六億から四十二億に 年度には百十九件に増え、予 うので期待しております。 頂きたい。漆部門については 意して進めて頂きたい。人員、ありますが、今後は充分に注 七十七件だったのが、 存修理の件数は平成四年度に 部門でも今後企画されると思 資料をまとめられたが、他の 全文連さんで色々と調査され として捕らえているので理解 これを現時点での一つの指標 施して、ご協力願っているが 原材料等の点で調査を折々実 時として手戻りになる仕事も 進捗状況に謝意を表します。 には文化財関係工事の各パ 寺建造物美術協議会の皆さん -を担当されて、円滑に近い

落ちた。修理は、待ったなし」 尊を安置する内陣が最もひど の状態だった』との由。今 様は風が吹くと顔料がはが 根は雪解けが遅い北側の軒が したい。と語られた。 「思い熱く、最高の仕 雨漏りは皮肉にも 極彩色模

保 え頂きたい。との要望が出さ につながるので、是非共お考 頂きたい。それが業界の振興 の工事を少しでも多く出して 三部門(金工、彩色工、漆工) った。更に私共協議会から、ねて下さい。」という内容であ ついては後日、 ることをす 振興基金』の補助申請をさ 開く予定があれば『芸術文化 す。協議会として、 人の参加が望ましいと思いま 実化・活性化させるのに若い に見られます。研修事業を充 徳寺唐門や南禅寺の山門など すめます。要領に 建造物課へ尋 研修会を

あ

二高岡で、 宿泊先はホテルニューオ 挨拶して、現場を後にした。 皆さん、大林組堀所長さんに 土山住職、武内様、今井様他 投宿後懇親会を開

15. 5. 30

まず、社全国国宝重要文化同ホテルの会議室で開催した。

委任状提出六社)。総会は成立、計十一名。欠席会員六社(内、

七社(出席会員随行員四名)

第二日は、午前九時より

財所有者連盟、後藤事務局長

議案の内、

より「文化財保護行政の沿革

こ の 『錺の響』は平成十四

仕事通じ〝手の言葉〟語る

のです。 の承諾)を受けて転載したも 掲載されたものを同氏の許可 版「美とくらし」欄に月二回 年四月から産経新聞・西日本 産経新聞、 支局長

当協議会の副会長をしておら おられ、今も現役で活躍され 存技術保持者認定」を受けて 金具の技術で、 おられる斯界の第一人者で 森本安之助氏は、錺 国の 「選定保

森本安之助さん(七四)=写 所」の看板を掲げる三代目・ 仕事でつくりあげていく匠。さまざまな種類の錺金具を手 ます。襖の引き手や釘隠とい った小さな細工から仏具、祭 京都市に「森本錺金具製作 「錺師」という仕事があり 神社仏閣の建築金具まで

社庁などのご用達を務めるこ 真=は、宮内庁や文化庁、 の道の第一人者 神

森本安之助氏



日本で金属が初めて使わ

る腰輿(およよ)は桧製で、

朱の漆塗と緑青の彩色を

要所には金鍍金の錺金

ヒロインである斎王代の乗

へと発展します。

よって、 す意匠や技法が生まれ、さら に日本独特の金工美の極致と 風の意匠が見られるようにな 金、彫金の精巧な技術が興り 加工技術が発達するのは弥生 もいわれる江戸期の装剣金具 そして平安後期以降、日本 鎌倉、 梵鐘などを作る鍛金、鋳 飛鳥時代の仏教伝来に それぞれの時代色を映 仏教、 室町、 建築金具、 桃山の時代

的で真実なものにするために、 まいました。 の豊かさのありようを教えて う森本さんの手の言葉は、真 金属を細工した工芸品」とい 日々の暮らしを楽しく、合理 との距離は大きく隔たってし 暮らしと"錺金具的なもの の欧米化志向の中、 れる気がします。ご期待く しかし、第二次世界大戦後 「錺金具とは、 日本人の

襖の引手から感じる心

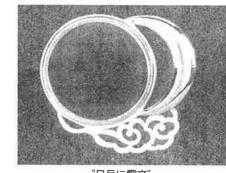
襖の引手がある。 生活に最も身近なものとして 錺金具の中で、われわれの

襖を機能させるには、なく

銅、 ど多様な技法が使われる。ま 透彫、無地、七宝入、象嵌な 考慮して意匠され、毛地彫、 などあらゆる関連した条件を 部屋の格、 ものではなく、 ただ用が足せれば良いという てはならない存在であるが、 素材も金、銀、赤銅、青 建具の素材・ 建物の種類、 色彩

についても同じことが言える。より著しく発展するが、引手多くの錺金具は、桃山時代 たとえば、国宝「二條城」 黄銅など多種用いる。

もので、 を配し、 る。 絹糸製の大房が仕組まれて 付鍍金墨差し」仕様の豪華な 称されるもので、徳川の家紋 の引手。いわゆる御殿引手と 「毛地彫地魚々子打水銀箔焼々配し、唐草文様の品位ある 張台構えの引手には



"日月に雲文"

いうお考えのようだった。

が好んで使われる。字、櫂、鏑矢など簡 木瓜、 花菱、折れ松葉、 桂離宮では横長の丸

る。 要素の含まれた意匠が見られ 心のゆとりがもたらす遊びの

れる。しかし、かさ、繊細な優と、引手には日 か。先人たちの培ってきた心 引手には日本人の心の豊 繊細な優しさが感じら 昨今の姿はお

『釘隠し」にも現代の感性を

ので、 したい、という話だった。 き手を手づくりのもので調達 で、純和風の建物を新築する 長押は柱と柱を繋ぐ水平材 長押の釘隠し、 襖の引

鏑矢など簡素な意匠 月文

鳳凰、花籠、千鳥文など

このように取り上げてくる

を取り戻したいと思う。 粗末というか、貧しいという

た。祇園で京の宿を営む女将一人の女性を伴ってやって来ある日、仕事仲間の友人が、

た金具が、「釘隠し」。当方にで、釘を隠すために考えられ 品があり、それを求めたいと は、今まで製作した数多くの

と、部屋数も多く、 しかし、建物の概要を聞く 部屋の名

民家に多いのは、日月に雲

よう。 性を表現するのは当然といえ

の街はにわかに活気づいて

筍が出るようになると、

巨大なエネルギ

して、薄肉彫を施し、七宝焼彫。引き手に"花籠"を意匠 風月を表現した。 を入れて華麗さを出し、 わせた打出彫に、下の雲は透 いに対しては、日月を組み合

のである。ことが、何よりの仕事冥利な る多くの人々に喜びを与える んでいた。それならば、

まった。 宿に来られるお客さまが、 望にこたえるのはもちろん、 らぎやくつろぎなど、高度な こうした場合、

下にあるので安定感のある象隠しを飛ぶ姿とし、引き手は にするのが自然だろう。 引き手は"立鶴"の意匠にす る。長押を空になぞらえて釘 しは打出彫の "飛翔鶴"、襖の たとえば「鶴の間」の釘隠

提案したところ、「考案して欲り室名にふさわしい意匠をと しい」ということで話がまと やは

付加価値を感じられるたたず い。そして同時に、現代の感まいを演出しなければならな お施主の要 安

一方、花鳥風月のたたずま

物つくりの職人は、 使われ

吉祥や京都の名所にちな

ろう。 向上、発展のために巨大なエ 時にお互いの和と、さらなる 供も男女を問わず、神に対す ネルギーが発散されるからだ 祭りが始まるのだ。大人も子 る畏敬と感謝の念をこめ、 さて、 いよいよ鎮守のお社でお

ると聞いている。される。五穀豊穣をお祈りす大祭の一つである葵祭が斎行 五月になると京都三

をはじめ諸役の武官、 王朝絵巻。その中には、 の行列が新緑の都大路を練る 京都御所を出発、五百余人 舞人、

を頼り紹介を受け、親子代々 っておられる秋田忠重さんと 漆掻きの仕事を半林半農でや 八が居て、この人からの伝手 《岩手の本職がやって来た》

歎きから取り掛った試みだ。 お見せするしかない。 こりゃ見てくれだけの現況を らは後発(然も始めてから十 職の一団がやって来る。こち 変だ。漆掻きを生業とする本 電話が掛って来た。さあ、 いので寄せて貰いますが」と さんとこのうるしの山を見た る会長の岩舘さんから「小西言う日本一の生漆生産量を誇 日本うるし掻き技術保存会と ある日、岩手県浄法寺町の

の、予定より早く着くのも当に入る親爺ばっかりなんだも 後手に廻ってしまった。 すっかり調子の狂った私達は たり前ヨ。参った、 の朝は四時頃に山へ掻き取り 考えてみるまでもないが、夏 したよ』とニコニコしている。 も!)『すっかり見せて貰いま し早く着きまして』(三時間 ら岩舘会長が『ちょっとばか 年輩の方々の顔々。その中か から降りた私達の前に醇朴な 集団が… 居た居た、日焼けした男達の 当日朝早目に現地へ赴くと 緊張して車 参った、

草取り、 年の内、

枯死木の処理、 漆畑の見廻りと、下

根分

けした苗木を育て・挿す

作業、

"飛翔鶴

魚袋をさげ、錺剣と称するとくに勅使は、右腰に銀製の 楽人、女官などが含まれる。 土地の神さま崇める心

15. 5. 30

嵐山、松尾大社の神輿が勇壮 担ぎ棒の先の鼻かんが、シャ に町を行く ンシャン"と鳴り響く。京都・ と威勢のよいかけ声とともに、 「ホイット、 ホイッ

された金色の太刀を帯びる。柄・鞘など適所が金具で装飾

行列をより引き立てるため

車は、

木製で漆塗を施し、屋

0

俗に御所車と呼ばれる牛

まに地域のありさまを見てい 感謝の気持ちをこめて、 まをお乗せする大切な乗り物 ただく儀式。神輿はその神さ 氏子たちが年に一度 神さ

> 可能な限り最高のもので奉仕 れゆえ先人たちはそれぞれの

実直さはもとより、

、先読みの

ん、当代の稔さんは親譲り さんは実直で売ったおやじさ て来られたのだとの由。忠重 跨る)を中心に漆掻きを続け 八溝山系(栃木と茨城両県に

0

良い人で、こんにゃ

名人肌である。孫の若い息子

さんも家業の漆掻きを継いで

輿は、"神さま"即ち御神体を

ておられる事が判った。

所謂

息子の稔さんが県内で活躍し

お乗せする乗り物であり、そ

の大牛にひかせている。白梅を飾り付け、美しい装いきつばた)あるいは、紅梅、

具を配し、

藤の花に杜若(か

毛彫りの金鍍金(ときん)金

胴回り、車輪の要所には

けて、荘厳さを表現する。ため、随所に錺金具を取り付 ヤキ、 木地の保存と耐久性を高める 耐えられる仕組みで造られる。 漆、金箔、顔料、 適所に使い分け、永年の用に 神輿の本体は、 カシなどの木材を適材 ヒノキ、 岩絵具で、

具を使用して格式を一段と高

鴨川の堤を、行列が往く。

いる。

役割を担っている。品位の程 められるといっても過言では 度によって、全体の価値が決 なかでも錺金具は、重要な

の車が、陽光を浴びてきらり 斎王代の腰輿の屋根が、牛車 馬上ゆたかな勅使の腰の剣が

と奥ゆかしく輝く

彫りで、地に魚々子 (丸い粒) 駆使する。これは、"打出し"「地彫り」という最高の技を を蒔く技法。そこに水銀と金 と "削りとり"を併用した肉 そこで、 われわ れ職人は、

(5)

らされる。

錺金具が使われているのを知

装束類にいたるまで、

随所に

このように細かく観察する それは錺金具である。

お祭りにも祭具をはじめ

厚畳、戸帳、御翠簾、 また、御神座には、 た繊維の類も多用される。かける御衣、鈴縄、房といっ また、御神座には、お茵、らのメッキ「金銷」を施す。 とアマルガムを使う、 改めて言うまでもなく、 古来か 屋根に 神

(原文のまま) る心…それは日本の文化の美 する心を教えている。 素直に土地の神さまを崇め い伝統だと、 わたしは思う。

^この項、次号に続く>

が居られなかったら、ウチのないですか。実際にこの一家

くれるとの事。

うれしいぢゃ



ばならなかった。まして、一きさんに出張して貰わなけれ

漆樹林は東北や北陸から漆掻

栃木の"うるし" 州小西美術工藝社 からの通信 [前号から続く] 雄

な話だが、世の中のためにな

漆の木にとっては迷惑

取る技はさすが名人の家系と

来る貴重な存在だ。歩留り良 ひと通りの手入れをお願い出

く売る漆液を漆の木から掻き

木県は益子の里に生漆の仲買 全く天の配剤と言うか、

《秋田一家はすぐれもの》

栃 から以て瞑すべし、 わが国の文化を守るのだ

諸漆精製販売・漆附属品各種 材 料

塗料一式

庄 露高野漆行

(石川·金沢)

920 0918 金沢市尾山町二番三八号 (〇七六) 二二一一〇一九〇

今回は、創業百二十五年の髙野漆

現地、 明治十二年(一八七九年)に創業し ました。二代目、 行さんの紹介です。 の商店街に店を構えました。 初代善太夫さんは福井の生まれで 金沢市の中心地、尾山神社前 庄次郎さんの時、



じめ五代目になる、智行さん達に さんが亡くなりましたが、 現在は、五年前に四代目、 奥様は

対話を通じて研究しているそうで まじめに追求し、漆の本当の良さ チャーセンター、 方が増えてきたため、 厚い。又、素人で漆に興味のある を多くの人に知って貰うにはどう た商売」をと申し伝えられている であり、人の心です。「心のこもっ 本は変わらない」商売の基本は人 ど各方面に漆を製造(精製)販売 との由。客に喜ばれる商品作りを 化しても、根本の仕組みである基 受け継がれています。 しています。 したら良 先代からの「いくら世の中が変 業者や職人さんからの信頼は 今では、 いか、 漆器関係、 等。 学校等にも販売 職人さんとの 通販、 建築界な カル

「社寺建造物美術協議会」 名簿

(五十音順)

平成 15 年 4 月

| 172 | | | | | | 1 /20 .0 1 . / 3 |
|-----|----|-------------|-------------------|------------------------|---|--|
| | | 法人名(個人名) | 代表者名 | | 住 所 | TEL•FAX番号 |
| | 1 | (株)大谷相模掾鋳造所 | 大 谷 晴 英 (大谷秀一) | 〒537-0011 | 大阪府大阪市東成区東今里2-6-20 | TEL: 06-6971-6571 FAX: 06-6971-6511 |
| | 2 | (前)川面美術研究所 | 荒木かおり (川面稜一) | 〒616-8242 | 京都府京都市右京区鳴滝本町69-2 | TEL: 075-464-0725 FAX: 075-464-0099 |
| | 3 | 岸野美術漆工業㈱ | 岸野 勲 | 〒321-1404 | 栃木県日光市御幸町587-2 | TEL. 0288-53-3366 FAX: 0288-54-0072 |
| | 4 | (株) 金 寿 堂 | 黄地耕造 | 〒527-0122 | 滋賀県愛知郡湖東町大字長273 | TEL, 0749-45-0003 FAX. 0749-45-0505 |
| | 5 | (株)小西美術工藝社 | 小西晫也 | 〒108-0074 〒321-1431 | 東京都港区高輪2-21-40 国際高輪ビル7F 栃木県日光市山内2365 | TEL 03-3447-1481 FAX 03-3447-0736 TEL 0288-54-1198 FAX 0288-54-1196 |
| | 6 | (前)齊藤添工芸 | 齋藤敏彦 | 〒270-1434 | 千葉県印旛郡白井町大山口1-19-2 | TEL _* 0474-91-8712 FAX. 0474-91-9046 |
| | 7 | (株) さかい | 酒 井 清 | 〒520-2331 | 滋賀県野州郡野州町小篠原7-1 | TEL. 0775-87-1178 FAX, 0775-87-5355 |
| | 8 | (株) さわの道玄 | 澤野道玄 | 〒604-8232 | 京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491 | TEL, 075-254-3885 FAX. 075-254-3886 |
| | 9 | (有)鈴木錺金具工芸社 | 鈴木重信 | 〒321-1412 | 栃木県日光市東和町57-1 | TEL. 0288-53-1121 FAX, 0288-54-3263 |
| | 10 | (株) 青銅 社 | 稲見 晃 | 〒933-0806 | 富山県高岡市赤祖父94-1 | TEL. 0766-25-1139 FAX. 0766-25-5231 |
| | 11 | 田村流工制 | 田村貫一 | 〒420-0886 | 静岡県静岡市大岩4-31-14 | TEL. 054-249-0538 FAX. 054-249-0539 |
| | 12 | (㈱細川社寺巧藝社 | 細川夫美子 | 〒651-2242 | 神戸市西区井吹台東町1-5-13-301 | TEL- 078-997-7178 FAX. 078-997-7179 |
| | 13 | (株)森本錺金具製作所 | 森本安之助 | 〒600-8321 | 京都市下京区楊梅通西洞院東入八百屋町59 | TEL. 075-351-3772 FAX. 075-361-8877 |

補助金内定のお知らせ 芸術文化振興基金からの

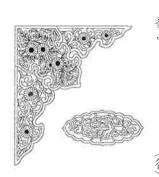
四月中旬に内定通知を頂き 掲載文がありますが、今年 第十四回総会記事の中に 取り敢えずご報告 〈事務局

絶対量が足りない点の解決が 頃の半分位に少なくなりまし と、仕事の中身として雑工事 の範囲で仕事量が減り、ひと 業界の現況をお話しします 業界全体でいえることは、

> 注がつらい要因で、 必要です。 ゼネコンから安い単価の発 ?

均年齢が上昇し、四十歳代の るで継父母に食べさせて貰う です。技術者の修業年限は短 後半で若い戦力が少ない職場 子供よりもつらい。職人の平 子もつらい、ま

親もつら 間が掛り、 比率が高く、技術の習得に時 来ない作業が多い、手作業の 若者が入って来ても機械化出 どないするねん。と言われる。 くても十年を切ることはない。 衰微を肌で感じられ、"後継者 傾向にあります。又、業界の 「よう言うたるわ、 やめられてしまう ほなら仕



事くれへんかいな」それが